


令和3年度 貞光小学校 学校評価総括表

貞光小学校長 永井康彦

(学校教育目標) 知徳体の調和のとれた人間性豊かな児童を育てるとともに、基本的人権を尊重し、自主性・社会性・創造性に富む心身ともにたくましい実践力のある児童を育てる。	(校訓) 至 誠 — いま なさざれば —	学級数	児童総数	教職員数	
		9	146	20	

令和3年度 重点目標	① 児童が生き生きと学べるよう、ICT等を活用した授業展開を工夫し、児童一人ひとりを大切にされた学級・学校経営を充実させる。 ② 人権教育の徹底を図り、いじめや差別を許さない児童を育成する。 ③ 学校・保護者・地域の連携を大切にされた教育を推進する。	めざす子ども像	・素直で広く考える子ども (人の話をよく聞き、自ら学び、自ら考える) ・仲よく助け合う子ども (相手の立場になって考え、思いやりをもち、協力し合う) ・元気によく働く子ども (健康で、生き生きと活動し、最後までやりとげる)
---------------	---	---------	--

自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
活動計画	評価指標	自己評価		
① 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習習慣を定着させる。 分かる授業展開のために、ICTの活用を推し進め、指導方法の工夫改善に努める。 教職員が目標を共有し、協力してしどろにあたる。	「家庭学習が計画的にできている」と答える児童・保護者・職員が85%以上になる。 「先生は分かりやすく教えてくれる」と答える児童・保護者が85%以上となる。 「職員は協力して指導している」と答える児童・保護者・職員が85%以上になる。	B A A	A	概ね評価されているように思う。今後も、目標達成に向けた取組と教職員間の協力・協調体制の強化・構築に努めてもらいたい。家庭学習における児童の評価C・Dが計18%であることが気になる。教員がICT活用スキルを共有し、全ての学年で同様の授業を受けられるように願う。
② 道徳教育・人権教育を年間計画に基づき、教育の中核に据えて実施する。 教師自身も積極的にあいさつを行うとともに、児童の挨拶指導を行う。 いじめに関する調査を定期的実施し、全職員でいじめ根絶に向け指導する。	「人権を大切にされた教育が推進されている」と答える児童・保護者・職員が90%以上となる。 「自分から進んで挨拶をしている」と答える児童・保護者・職員が85%以上になる。 「いじめ根絶に向け、すぐに対応する学校である」と答える職員・保護者が85%以上になる。	B A B	B	道徳教育・人権教育は、個々に受け取り方が違うので、話し合う時間を大切にしてほしい。いじめ問題も同様で、一人一人の気遣いが大切である。人権に関してはアンケート内容が難しいかもしれない。家庭的な学級、学校生活を望みます。特に給食の時間を大切にしてほしい。
③ 家庭と連携し、早寝・早起き・朝ごはん等規則正しい生活ができるようにする。 地域・関係機関との連携を密にし、郷土愛を育む教育を創造する。 教育内容や児童の様子を積極的に保護者に知らせ、保護者からの意見を教育活動に生かす。	「規則正しい生活ができている」と答える児童・保護者・職員が85%以上となる。 「地域・関係機関との連携を密にし、郷土愛を育む教育を工夫している」と答える保護者・職員が85%以上となる。 「学校は、保護者との連携を密にした教育に取り組んでいる」と答える職員・保護者が85%以上になる。	B A B	B	規則的な生活習慣の形成について、家庭との連携に工夫改善をお願いしたい。ゲーム等が規則正しい生活にマイナスの影響を与えているのではないかと。保護者及び地域等との連携については、HP等も活用し様々な確認ができるようにと期待する。学校と保護者の連携については、保護者の求める内容と学校が開示できる情報に乖離があると思われる。挨拶を意識していない児童への挨拶の意識付けを図ってもらいたい。
教職員の業務改善を推進し、超過勤務を少なくする。	全職員の1か月の超過勤務時間が、45時間以内となる。	B		働き方改革推進のため工夫改善を期待する。時期によって仕事が集中するが、できるだけ分散させて超過勤務を減らしてもらいたい。恒常的に超過勤務をすることのないように対策をしてもらいたい。

(評価基準 : A 目標を達成できた B ほぼ目標を達成できた C やや目標を下回った D 改善を要する)

家庭と学校が協力して、児童それぞれの生活スタイルの中で家庭学習が定着するよう期待している。また、教職員の働き方改革が推進するよう、工夫改善を求め。

次年度も継続して「家庭学習週間」を設定する。児童一人ひとりの目標を明確にし、保護者と連携して家庭学習の充実に努める。

勤務時間管理を徹底するとともに業務改善に努める。

挨拶や TPO に応じたコミュニケーションについて今後も継続した指導を願いたい。道徳教育・人権教育の時間について、児童の実態把握に努め、安心して学べる学校づくりに努めてもらいたい。

教職員の協力体制のもと、児童理解に努め声かけや称賛を行った。児童が、安心して学べる環境づくりに努め、次年度も道徳教育・人権教育の推進に向け、取組を充実させる。

基本的な生活習慣・体力づくりについては、さらに工夫改善をし、学びの基礎づくりや体力向上の充実した取組を期待する。

基本的な生活習慣の定着にむけ家庭と連携して取り組む。体力向上については、全校で取り組める実践に向け、一層の工夫改善を図る。